

100周年開幕ミサ 堤神学生終生誓願式

2025年2月8日、サレジオ会来日99周年を迎えたこの日、カトリック調布教会にて100周年開幕ミサとフィリポ・ネリ堤神学生終生誓願式が行われました。堤神学生は、晴れやかな気持ちでサレジオ会員として一生を捧げる決意ができた笑顔で語り、会衆からあたたかな拍手が送られました。

式の後にはサレジオ神学院ドン・ボスコホールにてアカデミア（芸術・演芸発表会）が行われ、100年の歩みを振り返るビデオ鑑賞、100周年記念ロゴの表彰、チマッティ神父作曲のオペレッタ「マルコ漁師」上演のほか、ドン・ボスコオラトリオの青年によるダンス披露、SYM（サレジオ青年運動）の若者によるSYMシンドス（イタリア・トリノ）の報告があり、皆で喜びを分かち合いました。

来る100周年に向けて共に歩んでまいりましょう！



堤神学生と終生誓願式に参加したサレジオ会日本管区の会員ほか。カトリック調布教会にて

第29回総会・新総長誕生！

2025年2月16日から4月12日までの約2か月間、イタリア・トリノのヴァルドッコで、サレジオ会第29回総会が開催されました。総会は6年に一度開催される会の使命を刷新する重要な機会です。世界中のサレジオ会員が一同に会し、日本管区からは管区長の濱崎敦神父と副管区長の中田正一郎神父が参加しました。



また総会において、第11代総長にファビオ・アッタールド神父が選出されました。2025年から2031年までの6年間、サレジオ会を導くこととなります。新総長のために祈りましょう！

チマッティ神父の愛したお茶

ドン・ボスコ社から「チマッティ神父が愛した みやざき茶 チマッティー」が新登場！チマッティ神父が好んで飲んでいた宮崎の緑茶が、手軽なティーバッグになりました。やさしい味わいで、水出しもOK。チマッティ神父のほほ笑みが添えられたパッケージで、来日100周年の記念におすすめの一品です。ドン・ボスコ社にて好評発売中！



www.donboscosha.com

サレジオ会来日100周年に関する情報はこちら



100周年記念
アーカイブサイト

<http://www.oratorio.tokyo/>



ドン・ボスコの風
インスタグラム

<https://www.instagram.com/dbnokaze/>



ドン・ボスコの風 アヴァンティ no.2

2025年5月24日発行

編集人 岡本 大二郎
発行人 濱崎 敦
発行所 サレジオ会日本管区本部
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
電話:03-3351-7041 Fax:03-3341-5429
Eメール: dbw@salesians.jp

編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社
印刷所 株式会社プリントパック

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© サレジオ会日本管区本部 2025

「ドン・ボスコの風」について

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した「Bollettino Salesiano」の日本語版。サレジオに関わる人びとの生き方や活動を紹介します。サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

note版「ドン・ボスコの風」https://note.com/db_no_kaze

サレジオ会日本管区が管理人を務めるサレジオ家族のウェブ版オラトリオ（学び舎）です。若者と、共に歩むすべての人が、学びつながら場として、皆さんと一緒に作っていく発信スペースです。サレジオ家族の様々な人や場所、事柄を随時紹介しています。



Salesian Bulletin Japan

ドン・ボスコの風



Avanti

アヴァンティ

no.2

2025.5

特集

この100年間に 日本で働いたサレジオ会宣教師

今年（2025年）はサレジオ修道会にとって、「海外宣教師派遣150周年」という記念すべき年です。南米の司教からの要請を受け、ジェノバ港からカリエロ神父を団長とする第1回宣教師団がアルゼンチン・パタゴニアへと派遣されたのは、1875年のことでした。カリエロ神父が出発するとき、ドン・ボスコは自分の本当の子どもを送り出すかのような、胸が潰れる思いであったと言われています。先日イタリアで開かれた第29回総会では、世界中から集まった総会参加者でジェノバ港に行き、海外宣教の実りがここにあることを思い、感謝の祈りを捧げたのでした。

時はたち、1925年、海外宣教50周年を記念する年に、当時の総会長であったリナルディ神父は新規事業として日本に宣教師を派遣することを決定します。下の写真は、日本への最初の宣教師団の写真です。その後もチマッティ神父による度重なる呼びかけに応じて、多くの宣教師たちが派遣されてきました。日本におけるサレジオの事業はこれらの宣教師たちの尽力のおかげで現在の繁栄を見ることができるのです。

- ヴィンチェンツォ・チマッティ 司祭 46歳 イタリア人 ヴァルサリチェ支部より
- ジョヴァンニ・タンギー 司祭 45歳 ベルギー人 スペインより（大分・中津・都城教会の主任司祭、練馬神学校の院長、修練長などを歴任。病気のため帰国。）
- アントニオ・カヴォリ 司祭 37歳 イタリア人 ベルージャ支部より（教護院（現・カリタスの園）、宮崎カリタス修道女会（現・イエスのカリタス修道女会）の設立に尽力）
- ピエトロ・ピアチェンツァ 司祭 26歳 イタリア人 ランツォ支部より（1935年病気のため41歳で帰天）
- レオーネ・リビアベッラ 司祭 30歳 イタリア人 ローマ支部より（宮崎、別府、目黒、三河島の各教会で活躍、戦時中は満州に派遣された）
- アンジェロ・マルジャリア 司祭 27歳 イタリア人 エジプト アレクサンドリアより（ドン・ボスコ社、東京育英工芸学校（現・サレジオ高専）、大阪星光学院の設立に尽力）
- ルイジ・グアスキーノ 修道士 32歳 イタリア人 アオスタ支部より
- アルフォンソ・メルリーノ 修道士 24歳 イタリア人 トリノ マルティネット支部より
- ジョヴァンニ・デ・マッティア 修道士 37歳 イタリア人 ファエンツァ支部より

出典：「チマッティ神父の日誌」より



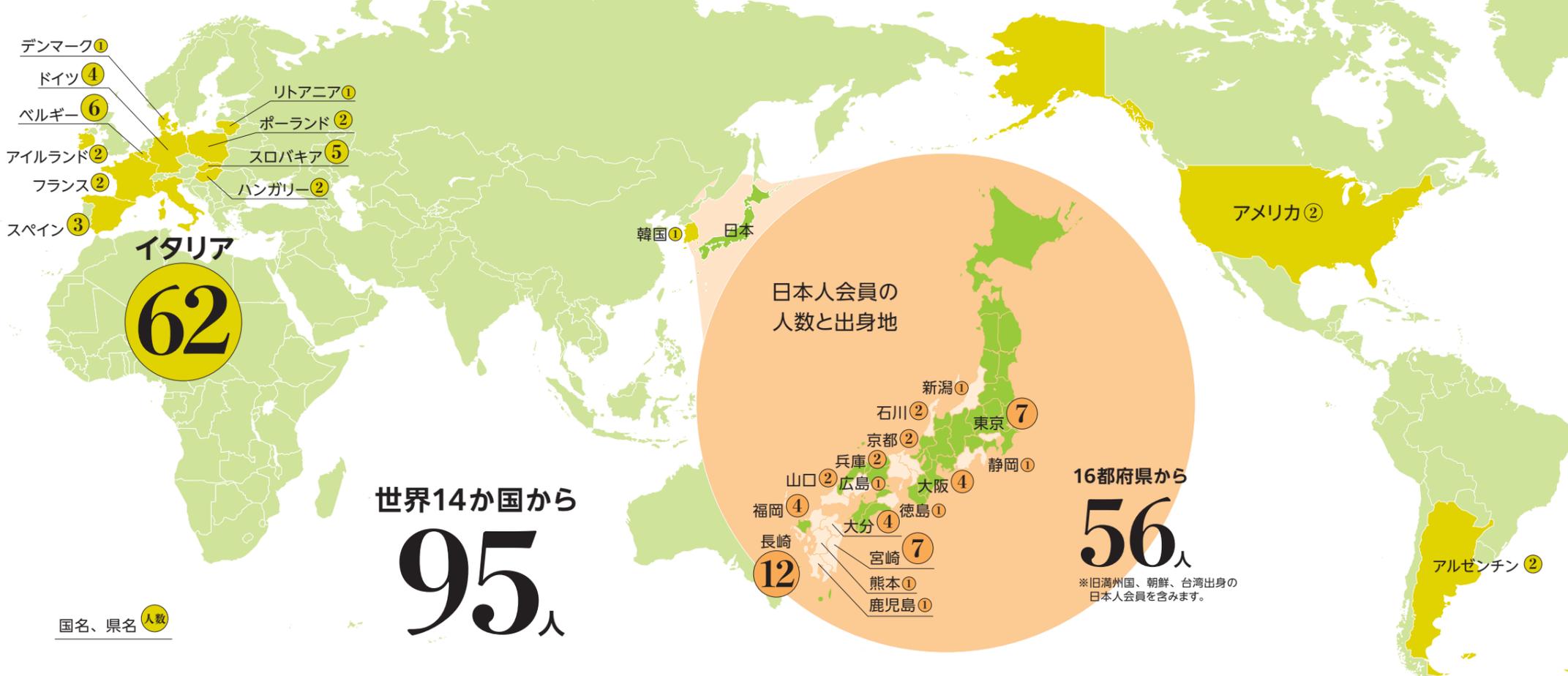
前列左より、タンギー、チマッティ、ピアチェンツァ
後列左より、デ・マッティア、グアスキーノ、マルジャリア、カヴォリ、リビアベッラ、メルリーノ



サレジオ会来日100周年

記念期間：2025年2月8日～2026年2月8日

『サレジオ会日本管区霊簿』による 日本に来た宣教師の人数と出身国 (2025年5月現在)



● 宣教・司牧の場
日本においてサレジオ会宣教師たちが最初に任されたのは、それまでパリ外国宣教会が担当していた宮崎、大分、中津の小教区でした。チマッティ神父は宣教師団を3グループに分けて司牧活動を展開することにします。しかし、その前に彼らは日本語を勉強しなければいけません。宮崎に於いて1年間前任者と共に生活しながら、小学生の教科書を使ってみんなで学んでいったのでした。現在の橋通に面した一角にその教会はあり、言葉の困難はありつつも、子どもたちや信徒たちの司牧に熱心に働いたのでした。また、日本の各地に出向いてコンサートを開き、音楽を通しての布教にも力を入れていました。3年後の1929年にはサレジオン・シスターズの第1回宣教師団も来日し、ともに宮崎の地で働き始めることになります。

● 社会福祉事業と修道女会の設立の場
宮崎教会で働き始めてから、この地域に身寄りのない子どもたちや見捨てられ世話をされずにいたお年寄りがいることに気がついた宣教師たちは、教会の青年たちとともに社会福祉事業にも乗り出します。1932年に子どもたちやお年寄りの世話をする「救護院」を建て、そこで働く女性たちの中からこれと思う人を神から与えられた使命へといざない、「宮崎カリタス修道女会（現・イエスのカリタス修道女会）」が誕生します。救護院はその働きが宮崎の市民からとても評価され、現在では「カリタスの園」という社会福祉法人として、その使命が引き継がれています。

● 司祭・修道士召命の養成
また、日本でのサレジオ会の発展を見越して、世界各地から新たな神学生たちが宣教師として日本にやってきました。彼らの養成のために、大淀河畔に日本家屋を借りて神学院を開いたのは、来日4年目の1930年のことでした。その後、より良い環境を得るために、神学院は高鍋に移設されることになります。
チマッティ神父は、日本人の聖職者召命の発掘にも当初から大きな関心を持っていました。神学院を開設した同年に、中津に小神学校を開き、志ある少年たちを集めます。1933年に宮崎に移設され、「宮崎小神学校」となり、戦争の影響で閉鎖されるまでの12年間に数多くの邦人司祭・会員を輩出することになります。そして、この小神学校が現在の日向学院中学校・高等学校誕生の基礎となっていくのです。

9人の宣教師たちによって始まった日本のサレジオ会は、その後も数多くの熱意あふれる宣教師に支えられて今日に至ります。これまで何人の宣教師が日本に派遣されたのか、正確な人数を算出することは難しいのですが、今回、サレジオ会員として生涯を全うした会員の名簿である『サレジオ会日本管区霊簿』（2025年5月現在）を元に、宣教師の人数と出身国の統計を出してみました（存命の会員は含みません。日本人会員の人数と出身地の統計もあわせてご参照ください）。
霊簿に載せられた会員151人のうち95人が海外からの宣教師であることから、日本管区がいかに宣教師によって支えられてきたかが分かります。今日も「サレジオ会員は皆、神と唯一の修道会に属しており、全員が全世界のドン・ボスコのサレジオ会員である」（第28回サレジオ会総会、総長の閉会講話より）ことが強調され、管区や国籍の枠を超え、サレジオ会の共同体は多様性と一致のしるしとなることが求められています。

- 宣教師による活動の主な出来事**
- 1933年12月 「中津養成院」（現「聖ヨゼフ寮」）開設
 - 1934年4月1日 東京練馬区に「帝都育英工芸学校」（現「サレジオ工業高等専門学校」）が開設
 - 1937年8月15日 宮崎カリタス修道女会（現イエスのカリタス修道女会）誕生
 - 1946年4月 「日向中学校」（現「日向学院」）開校
 - 同年11月 板橋の成増に「東京サレジオ学園」を開設
 - 1949年 「目黒サレジオ幼稚園」開設
 - 1950年 「大阪星光学院」開校
 - 1952年 別府「海の星幼稚園」開設
 - 1954年5月24日 碑文谷サレジオ教会の新聖堂落成
 - 1959年 東京・碑文谷に「目黒サレジオ中学校」（現「サレジオ学院中学校」）開校
 - 1974年 管区長館を四谷に移転
 - 「川崎サレジオ志願院」（現横浜）開設
 - 野尻湖少年聖書学校開始 など

現在の宣教師の人数と出身国

イタリア	5人	東ティモール	1人
ポーランド	5人	メキシコ	1人
ベトナム	2人	アルゼンチン	2人
ケニア	1人	計	17人

2025年5月現在

